

令和5年度 学校評価 総括評価表

評価基準 A：十分に達成できた B：概ね達成できた C：十分には達成できなかった D：全く達成できなかった

令和5年度重点課題

- | | | | |
|----------------|------------|----------------|--------------------|
| 1 学校運営体制の充実 | 2 人権教育の推進 | 3 学習指導の充実 | 4 進路指導の充実 |
| 5 生徒指導の充実 | 6 特別活動の活性化 | 7 安全教育と環境教育の推進 | 8 グローバル化に対応した教育の推進 |
| 9 特色ある学校づくりの推進 | 10 情報教育の推進 | | |

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価 ※昨年度のものが入っています。	学校関係者の意見	
1 学校運営体制の充実	①チーム市高としての調和と統一のある学校運営を図る。 ②教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る。 ③校内外での研修を通じて、指導力の向上を図る。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B (所見) ①本校の基本方針である3つの柱を踏まえた教育の実践のために、チームとして組織的に取り組んだが一部不十分であるとの意見があった。 ②各学期のe-ラーニング研修に加え、職員朝会や職員会議を有効に活用し、定期的随時にコンプライアンス意識の高揚を図ることができた。 ③「目標管理シート」の申告・報告の作成と校長面接により、すべての教員が自らの目標達成のための意識を高め、授業力の向上に取り組むことができた。	学校評価総括評価表についてはたくさんの数値目標を達成しており、学校関係者の努力を評価したい。「学問」「スポーツ」「芸術」を3本柱とした教育がなされている」というアンケート項目について、保護者・生徒と教員の間で温度差があることが気になる。学問のほうで温度差があまりなかった点は評価できる。文化・芸術もよくがんばっているの、周辺の強豪校に負けずに、がんばってほしい。 ②風通しの良い職場環境づくりを推進し、コンプライアンス意識を徹底する。研修を、年間を通じて機会ある毎に実施する。職員朝会で注意喚起するとともに、外部講師を招いての研修やe-ラーニングによる研修を引き続き実施する。 ③指導と評価の一体化を念頭に、引き続き講習会や授業研究会に積極的に参加し、授業力の向上と改善に努める。
		①教職員アンケートの「本校の基本方針である「学問」「スポーツ」「芸術」を3本柱とした教育がなされている」という項目において、「①よくあてはまる」「②ややあてはまる」の回答率90%以上をめざす。	①教職員アンケートの集計結果を見ると、「①よくあてはまる」は回答率41.0%で、「②ややあてはまる」も同じく41.0%、合計回答率は82.0%で目標数値には届かなかった。		
		②e-ラーニング研修を含め職員朝会や職員会議での啓発を年15回以上実施する。	②全体の研修は①夏のe-ラーニングによるコンプライアンス研修(7/1~7/31)、②県教委コンプライアンス推進室長による校内研修(8/25)、③冬のe-ラーニングによるコンプライアンス研修(12/1~12/28)、3回実施できた。職朝等における啓発、注意喚起は17回(1月末現在)実施し、合計15回以上の目標は達成できた。		
		③「目標管理シート」の研修の項目の達成率80%以上を目指す。	③今年度は、対面での研修会や研修会が再開され、年度当初の研修計画を達成した職員は、85.4%であった。		
	活動計画	活動計画の実施状況			
	①管理職と各課(室)長・各学年主任が中心となって、各課(室)・各教科・各部活動等がお互いに報告・連絡・相談を密にして調整を図り、調和と統一のある学校運営を図る。	①校務運営委員会をはじめ各種委員会において、アフターコロナの初年度として十分な議論を行い、すべて以前のまに返すのではなく、よりよい形になるよう、共通理解を図りながら学校運営を行った。			
	②e-ラーニング研修は年間3回、月1回以上職員朝会や職員会議等で注意喚起を行い、コンプライアンス意識の向上を図る。	②夏のe-ラーニングによるコンプライアンス研修(7/1~7/31)をはじめ、外部講師による研修も含めて年間3回のe-ラーニング研修を実施した。時機に応じた注意喚起をその都度行い、コンプライアンス意識の向上につなげることができた。			
	③校長との面談を年2回以上実施し、育成評価システムの「目標管理シート」を効果的に活用する。	③年2回の授業参観週間において、全教員が他の教員の授業を参観し、授業力の向上を図ることができた。また、ジャンプアップ研修やミドルリーダー研修等での研究授業を実施し、授業力向上に努めた。			

			③「目標管理シート」の当初申告時と最終報告時に校長面接を実施し、年間2回の実施が達成できた。			
2 人権教育の推進	①人権ホームルーム活動の充実を図る。 ②人権委員会を中心とした生徒の自主活動の充実を図る。 ③人権教育職員研修会の充実を図る。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	<p>人権ホームルームにおける先行授業の実施や、事前研修、人権新聞の発行、PTA校内研修など、活動は充実していたが、市高祭での人権展来場者数や、人権ホームルームの実実施回数が目録数値には届かなかった。人権ホームルームについては、学校行事の日程的なことを考えて、年に5回が妥当ではないかという意見があった。</p> <p>PTAの県外研修はコロナの影響で中止していたが、復活しているのかという質問があった。それに対しては予算的な問題も含めて検討していきたい。</p> <p>①高校における人権学習は、生徒たちにとってさまざまな問題について知り、解決に向けて考える大切な時間である。人権ホームルーム活動において取り扱うテーマや実施方法については、より生徒たちの実態に沿ったものとなるよう、適宜変更を行っていきたい。</p> <p>②本校の自主活動は、人権委員会の活動に支えられている。生徒(人権委員)がファシリテーターとなって行う授業の実現、校外活動への積極的な参加も推進したい。その際、できるだけ負担増とならないような配慮が必要である。また、人権問題研究部の活動の活性化にも期待したい。</p> <p>③本年度の研修は、動画を活用した自主研修、講師を招聘した講演を2回、現在本校で問題となっている事象をとりあげて考えてもらう研修を1回実施した。参加者の感想や意見については、職員間で共有できるようにClassiを活用した。次年度も、本校教職員の要望を踏まえつつ、社会状況に応じた研修を実施したいと考えている。</p>	
		①1年生6回、2年生6回、3年生は5回以上の人権ホームルーム活動を確保する。 ①1年生は1回、2年生は1回の先行授業を行い、全学年での公開授業を目指す。	①HR活動 1年生…5回、2年生…5回、3年生…5回 ①先行授業 1年生…2回、2年生…2回、3年生…2回 全学年で人権ホームルーム活動に際して先行授業を実施し、授業は公開とした。	(評定) B		(所見) ①年度当初に作成した人権教育年間計画に基づいた活動を実施し、概ね目標どおりの成果をあげることができた。3年生の問題意識調査では9割以上の生徒が「市高での人権教育は充実していた」と回答した。これまでも目標としてきた生徒が主体的に参加できる授業形態、生徒が人権問題を「身近なものとして捉えられる授業内容を、引き続き探究したい。
		②各HRの人権委員に人権ホームルーム活動の事前研修を実施する。 ②「市高人権新聞」は年間5回以上の発行を目標とし、記事には人権委員が書いたものを2つ以上掲載する。 ②「人権展」で来場者200人以上を目指す。	②事前研修 1年生…3回、2年生…3回、3年生…2回 ②市高人権新聞を年間3回発行。 ②「人権展」のために模造紙14枚、絵本を1作品作成した。今年度は市高祭が公開となり、来場者は193名であった。	②人権委員会の活動は、年間を通して活発に行うことができている。生徒主体の人権ホームルーム活動の実現に向けて、さらなる人権委員の活躍に期待したい。		②人権教育職員研修は、計画通り2回実施できた。またPTA研修も実施することができた。多様な人権問題に対する教職員や保護者の要望に応えられるように、また新しい研修のあり方や内容等について次年度以降も工夫していく必要がある。
		③PTA研修は2回、校内研修は3回以上の開催を目指す。	③PTA研修は2回、校内研修は3回開催することができた。	③人権教育職員研修は、計画通り2回実施できた。またPTA研修も実施することができた。多様な人権問題に対する教職員や保護者の要望に応えられるように、また新しい研修のあり方や内容等について次年度以降も工夫していく必要がある。		
	活動計画	活動計画の実施状況				
	①人権教育年間計画に基づき、各クラスの実態に即して指導を行う。 ①担任会で人権ホームルーム活動の事前研修を実施する。 ①各学年で先行授業(公開授業を含む)を実施する。 ①1年次の最初と3年次の最後に、人権問題意識調査を実施する。	①1年生は身の回りの差別を中心に学習した。2年生は歴史から差別を捉えることを目標に、アイヌの人々や同和問題、ハンセン病等についてを学習した。3年生は進学・就職・結婚を中心に学習した。 ①担任会で人権ホームルーム活動の前に、各学年担当より次回テーマの主旨説明や事前研修を行った。 ①各クラス担任を中心に先行授業を参観し、授業評価と感想を授業者に提出してもらい、相互の研修とした。 ①1・3年生に人権問題意識調査を実施し、データの分析を行った。				
	②各HRの人権委員に人権ホームルーム活動の事前研修を実施する。 ②人権ホームルーム記録用紙を作成する。 ②「市高人権新聞」を発行する。 ②市高祭で「人権展」を開催する。 ②「人権啓発作品展」を実施する。	②人権ホームルーム活動の実施前に人権委員会を開き、次回テーマの主旨説明や事前研修を実施した。 ②各クラスの人権委員は、人権ホームルーム記録用紙を、活動当日または翌日に責任を持って提出できた。 ②各クラスの人権委員は、担当月の人権新聞作成について責任を持ってやり遂げた。 ②人権展のためのレポート作成を夏休みを利用して行い、その内容をもとに模造紙や絵本等を作成し、市高祭「人権展」を開催することができた。またその作品は後日エントランスに展示し、本校生徒や来客者に紹介した。 ②2月に人権啓発作品展を実施した。				
	③校内研修を実施する。	③1学期に2回、2学期に2回、校内研修等を実施した。				

		③PTA研修を実施する。	内容は、1学期に「マイクロアグレッションについて」、夏季休業中に「無意識の思い込みについて」、9月に「生命（いのち）の安全教育」、12月に「教職員の人権意識を高めるために」とした。 ③上記9月の校内研修はPTAと合同で実施することができた。また3学期の人権意見発表会については、昨年度同様、PTA役員、発表者の保護者の方々に案内を出す予定である。		
3 学習指導の 充実	評価指標	①授業時数を950時間以上確保する。	①授業時数確保のため各学期定期考査後の日程を見直し、昨年より多い授業時数を確保している。 3学期末までの授業時数 今年度1101(予定)	総合評価 (評定) B	授業満足度のアンケート結果は素晴らしいが学習時間の定着を図るといったところで目標数値を達成できなかった点は残念である。 定期考査前の3時間時以上の学習について、定着するように生徒に粘り強く指導を続けてもらいたい。 図書館の貸出冊数の目標数値はかなり高いのではないかと。一人平均2冊ぐらい借りないとなかなか達成できない。 タブレットの普及により、調べ学習などはインターネットを活用することが増えていることが原因の一つといえるが、本の魅力はたくさんあるので、読書の啓発とその活用方法について考え、さらに図書室の利用の活発化に取り組んでももらいたい。 オンライン英会話の実施については費用がかかるものではあるが、年間7回で効果を上げようと思うとなかなか難しく感じる。
	①授業日数・授業時数の確保に努める。	②「学習のかたち週間」を1学期と2学期の初めに実施する。 (2、3年)「学習のかたち週間」を1学期に実施する。	②「学習のかたち週間」 1年 2回実施 2、3年 1回実施 ②授業満足度は87.7%で昨年より1.0%下降した。 ②1.2学期に1度ずつ実施し、教員間で情報交換した。	(所見) ①生徒にとってわかりやすく魅力ある授業を目指し、校内授業参観等による改善の努力を今後とも継続したい。	
	②わかりやすく、魅力ある授業に努める。	②授業満足度80%以上を目指す。 ②校内授業参観週間を1・2学期に1回ずつ設定する。	②2学期末の調査では、1年生35.6%。2年生47.1%であった。(昨年度1年生21.2%、2年生52.9%) ③定期考査ごとに設定し、自己評価をポートフォリオに記入・入力させた。	②授業参観や授業評価を通して、授業改善に取り組み、目標値を上回る満足度となった。	②校内授業参観や教科会議が、授業力や指導力の向上に十分機能するよう時間の確保を含め、充実させる。教科会議は学年教科会の充実も図りたい。 授業参観や授業評価については、実施率が100%となっていないので、未実施の教員への呼びかけ等の工夫をして、今後実施率を上げていく必要がある。常に良い教育や新しい教育の方法を模索しながら、教員がお互いに学び合い、高めていく意識を作ることが重要である。
	③学習習慣の定着を図る。	③定期考査前に家庭学習時間調査を実施し、3時間以上学習する生徒の割合を増やし50%以上を目標とする。 ③定期考査後に「振り返りの時間(リフレクションタイム)」を設定し、取り組みにたいする成果と課題について自己評価させる。 ③学年団を中心とする学力向上研究会を各学期に1回以上開催し、学力や学習状況についての分析、共有、協議を行う。	③各学年において、ホームルームや個人の学力や学習状況などについて情報共有し、対策について協議した。	③定期考査前の学習時間は昨年度と比べて低下した。改善に向けて取り組む必要がある。	③早期からの学習習慣の定着のために、更なるアダプティブラーニングの推進に努めたい。
	④思考力、判断力、表現力を育成する。	④補習授業での演習や実力テストでは、全教科において論述問題を出題する。 ④教科会を開き、論述問題についての出題や正答率について分析・検証を行う。	④記述問題を出題し、思考力や表現力の育成に努めた。 ④教科会において、実力テストの出題についての協議・検討を行った。	④思考力、表現力の育成のため、授業や評価のあり方を工夫することに引き続き取り組みたい。	④入試制度改革、新学習指導要領を見据え、評価のあり方を見直していきたい。
	⑤英語4技能を育成する。	⑤すべての生徒がネイティブと英会話を行うことができる機会をもつ。 ⑤英語外部検定を複数回受験できる機会を設ける。	⑤1、2年生で3回すべての生徒がオンラインによる英会話レッスンを実施し、4技能の育成を図った。 ⑤TOEFL Junior STANDARD テストを1回校内で実施した。また、英語検定の案内、受付を随時実施した。	⑤事後の指導の拡充や適切な評価が必要である。	⑤進路指導目標や生徒の実態に即した環境整備に向け、改善を図る必要がある。
	⑥多面的評価を図る。	⑥すべての学年において、キャリアパスポートを作成させる。 ⑥記録用のワークシートを配布、配信し、HR活動やIRPの時間などを利用して、活動や実績を記録させ、成果や課題についての振り返りをさせる。	⑥全学年で学習の成果や活動履歴などをキャリアパスポートに記録させた。 ⑥12種類のワークシートを準備し、記述と入力の両方で作成させた。	⑥定期考査後の学習への取組に対する振り返りは定着した。 ⑦今年度の入館者数は12/31現在でほぼ目	⑥4技能の定着・向上を継続して推し進め、新課程入試に向け、英語科と連携して取り組んでいきたい。

<p>⑦学校図書館の「学習センター」機能の充実を図る。</p> <p>⑧自ら学び、考え、判断できる主権者を育成する教育の充実を図る。</p>	<p>⑦12月末までの生徒利用のべ人数5,000人、一般貸出1,500冊以上にする。</p> <p>⑧新聞発表を通じて、新聞を読む習慣のある生徒の割合50%以上を目指す。</p> <p>⑧各学年において、主権者教育に関わる講演や模擬選挙などを1回以上行う。</p>	<p>⑦図書館便り8回・新着図書案内5回発行(12/31現在)開館日数165日で、利用延べ人数4,940人、一般貸出(生徒個人+団体)冊数804冊。(12/31現在)</p> <p>⑧今まで新聞を読む習慣がなかった生徒(3年生)が82.3%いたが、53.4%の生徒に読む習慣が生まれた。しかし、依然46.6%の生徒に読む習慣がない。昨年47%</p> <p>⑧各学年1回ずつ実施すると共に、HRや教科において事後指導をした。</p>	<p>標に近い数である。一方、貸出冊数の減少はタブレット導入等が一因であると考えられるが、図書委員主催の図書館展や1・2年生対象のビブリオバトルを実施し、読書活動啓発には一定の成果をあげている。継続して貸出冊数増加に取り組んでいきたい。</p>	<p>⑥キャリアパスポートを活用して、学習の振り返りを拡充し、学力の向上につなげたい。また、キャリアパスポートをとおして、多面的・総合的評価の充実を図りたい。</p> <p>⑦読書習慣の定着と図書館利用の促進を積極的に行い、「魅力ある図書館」作りに取り組んでいきたい。</p>
	<p>活動計画</p>	<p>活動計画の実施状況</p>		
<p>①行事を精選し、授業カットや短縮はなるべく避け、振り替え授業を徹底する。</p> <p>①50分の授業に集中するため、チャイムとともに授業を始める。</p>	<p>①出張・年休は可能な限り振り替え授業で対応した。授業時数の確保については、全職員共通認識の上で定着しつつある。</p> <p>①50分の授業に集中するため、チャイムとともに授業を始めることができた。</p>	<p>①出張・年休は可能な限り振り替え授業で対応した。授業時数の確保については、全職員共通認識の上で定着しつつある。</p> <p>①50分の授業に集中するため、チャイムとともに授業を始めることができた。</p>	<p>⑧公民科の授業だけではなく、生徒会役員選挙やHR、総合的な探究の時間等に社会への関心を高め、意見交換をする時間を設けた。生徒アンケートによると、年度初めに新聞を読む習慣のない生徒が、全体の82.3%を占めていたが、2学期末には、53.4%の生徒が「読む機会を設けるようになった」と回答している。また、従来読む習慣のあった生徒もより深く記事を読むようになったり、依然読む習慣がない生徒もニュースを見るようになったと回答しており、社会への関心が高まっていると考えられる。</p>	<p>⑧新聞を取っていない家庭やネットニュースで情報を入れる者が増えているが、その分学校での新聞を使った取り組みの意義合いが高まっていると言える。成人年齢も引き下げられたことから、更に主権者として必要な社会的関心を高める取り組みを進めていきたい。</p>
<p>②各学期の第一週を「学習のかたち週間」とし、全教科科目で実施する。予習・復習・ノートのとり方・授業に臨む態度など望ましい学習習慣の定着に努める。</p> <p>②教科会議で話し合い、授業方法の改善に努める。生徒による授業評価を行う。</p> <p>②校内授業参観週間では授業参観カードを有効に利用し教師相互の授業改善に努める。</p>	<p>②1学期当初は全学年に、2学期当初は1年生に実施し、教科担任から具体的な解説を行い、生徒の学習習慣の定着を図った。</p> <p>②1・2学期末に授業評価をし、生徒の意見を授業に反映させるとともに各教科で授業改善に取り組んでいる。</p> <p>②参観者の感想を授業担当者に渡し、授業改善の参考にしている。</p>	<p>②1学期当初は全学年に、2学期当初は1年生に実施し、教科担任から具体的な解説を行い、生徒の学習習慣の定着を図った。</p> <p>②1・2学期末に授業評価をし、生徒の意見を授業に反映させるとともに各教科で授業改善に取り組んでいる。</p> <p>②参観者の感想を授業担当者に渡し、授業改善の参考にしている。</p>		
<p>③週間課題・日々の課題を活用し、学力の定着を図る。</p> <p>③学習時間調査の期間を利用して、生徒一人一人の学習状況を確認するとともに、学習習慣の定着を促進する。</p>	<p>③課題を活用し、学習習慣の定着に取り組んでいる。</p> <p>③一人一人の支援に役立てるとともに、ホームルームにおいて、あるべき集団づくりの機会として活用した。自習室を平日8:30～19:00、休日8:30～16:30に年間を通じて開放した。1月26日まで233日開放。</p>	<p>③課題を活用し、学習習慣の定着に取り組んでいる。</p> <p>③一人一人の支援に役立てるとともに、ホームルームにおいて、あるべき集団づくりの機会として活用した。自習室を平日8:30～19:00、休日8:30～16:30に年間を通じて開放した。1月26日まで233日開放。</p>		
<p>④補習授業の計画・実施や実力テストの作成などの機会を活用し、思考力、判断力、表現力の育成を図る。</p>	<p>④主体的な学び、思考力、判断力、表現力の育成を踏まえた、補習授業の計画、実力テストの作成を行った。</p>	<p>④主体的な学び、思考力、判断力、表現力の育成を踏まえた、補習授業の計画、実力テストの作成を行った。</p>		
<p>⑤ICT環境の整備を計画的に進める。</p> <p>⑤英語外部検定の受験機会を拡充するとともに、取得に向けた対策を講じる。</p>	<p>⑤重点目標を踏まえた環境整備ができなかった。</p> <p>⑤TOEFL Junior STANDARD テストを1回校内で実施した。また、英語検定の案内、受付を随時実施するとともに、本校を準会場として検定を3回実施した。</p>	<p>⑤重点目標を踏まえた環境整備ができなかった。</p> <p>⑤TOEFL Junior STANDARD テストを1回校内で実施した。また、英語検定の案内、受付を随時実施するとともに、本校を準会場として検定を3回実施した。</p>		
<p>⑥IRPやキャリア教育と連携して取り組む。</p> <p>⑥ポートフォリオに基づき、生徒の活動について多面的に評価を行う。</p>	<p>⑥IRPの年間の活動計画に盛り込んだ。</p> <p>⑥IRPやホームルーム活動などの機会において主体的、協働性などについて評価する機会を増やした。</p>	<p>⑥IRPの年間の活動計画に盛り込んだ。</p> <p>⑥IRPやホームルーム活動などの機会において主体的、協働性などについて評価する機会を増やした。</p>		
<p>⑦教科や学年との連携を強化し、授業内容に合った資料の収集に努める。</p>	<p>⑦各教科や学年と連携して図書室を利用したり、学年毎にビブリオバトルを実施したりするなど、教科や学年との連携を図ることができた。</p>	<p>⑦各教科や学年と連携して図書室を利用したり、学年毎にビブリオバトルを実施したりするなど、教科や学年との連携を図ることができた。</p>		

		<p>⑧地歴科・公民科において、新聞を使った発表を行い、社会問題への関心を高める。</p> <p>⑧各学年において、地歴科・公民科の授業や総合学習における講演や体験的学習等を通じ、生徒の意識を高める。</p>	<p>⑧2年生：公共・3年生：政治経済（文系）において、新聞記事を利用した発表を行い、生徒同士の意見交換の時間も盛り込んだ。</p> <p>⑧1学年：講演、2学年：体験型授業を実施し、社会参画の意義について考えた。なお、3学年で予定されていた年金セミナーについても、社会保障の役割について意識を高める貴重な機会となった。</p>			
4	<p>進路指導の充実</p> <p>①生徒一人ひとりの進路希望の実現に努める。</p> <p>②IRP活動の充実を図る</p>	<p>評価指標</p> <p>①すべての生徒の進路について複数の教員で考える、進路検討会を定期的実施する。</p> <p>①生徒と担任の二者面談週間を年間3回実施する。</p> <p>①生徒・保護者・担任の三者面談を年間2回実施する。</p> <p>①難関大学（旧帝大・東工大・一橋大・神戸大・国公立大医学部医学科・早稲田・慶応）の合格者数30人以上を目標とする。</p> <p>②IRP活動（市高レインボウプラン）の生徒満足度70%以上を目指す。</p> <p>②IRP活動において、地域に関わる講演を各グループで2回以上（キャリアガイダンスを含む）もつとともに、立ち上げた産学官連携の成功を目指す。</p> <p>②理数探究の週時定内実施が2年目にあたり、校内での考察にとどまることなく、大学と連携しながら実験や調査といった探究活動の充実を図る。校内の中間発表会だけに留まらず、バイオ甲子園や京都大学ポスター高校生私の科学研究発表会、徳島県SSH課題研究合同発表等の大会への参加に向けて、トータル10回以上の参加を目指す。</p> <p>活動計画</p> <p>①生徒の志望の実現に向け、学力を育成するための支援について学年団で話し合い、指導力の向上を図る。</p> <p>①生徒一人ひとりの長所・適性を把握する。</p> <p>①入試制度に関する情報やデータの収集に努め、進路説明会やホームページなどをおして、生徒や保護者に適切な情報を提供する。</p> <p>①大学等の出張講義や研究施設を積極的に活用する。</p> <p>①高大連携を推進するとともに、連携事業への参加をうながすことで、生徒の知見を広げる機会を増やす。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①3学年は4回実施した。1、2学年は学力向上研究会に代えて各学期に1回実施した。</p> <p>①二者面談 1年2回、2年2回、3年4回実施した。</p> <p>①三者面談 1年2回、2年2回、3年3回実施した。</p> <p>①合格者26名（旧帝大:7名 神戸大:3名 国公立大医学部医学科:12名 早稲田:1名 慶応:3名）(3月13日現在)</p> <p>②3年生のIRPでは各グループが2回以上の面接練習や講義を行った。満足度は77.2%、昨年78.9%、一昨年79.3%。</p> <p>②2年生のIRPは、産学官連携の1年目。地域での調査（講師招聘及び現地訪問）を年間60回以上実施した。平均すると各グループは7回以上となる。中間発表は、各グループ発表。最終発表を経て、全体発表は、あしかびホールで行った。レポートは廃止し、プレゼンテーションソフトで2回発表する形とした。</p> <p>②理数科の課題研究について、1年生は鳴門教育大学教授のサポートを受けながら、探究活動を進めることができた。2年生は、大学との連携が十分ではなく、校外大会への参加も少なかった。なお、昨年度より協定を結んだ京都大学のポスターセッションに参加している。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①進路検討会や学力向上研究会を通して指導方法の工夫や情報交換を行うことで指導力の向上に努めた。</p> <p>①生徒の状況を把握し、上級学年を意識した声かけを行うため、面談を実施している</p> <p>①正確なデータや適切な資料を用い、生徒や保護者へ具体的な方策を提示するように努めた。</p> <p>①生徒や保護者に対して進路説明会を開催し、情報提供や進路意識の高揚に努めた。</p> <p>①高大接続改革、新入試制度についての研修に参加したが、「夢実現事業」の廃止により、先進校視察や研修課への参加が困難となった。とはいえ、高大民間での連携事業は増加しており、校外やオンライン</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> <p>①今年度も1・2年生の学習習慣の定着、進路意識の高揚を図るための情報共有や協議・対策の機会を持つことができた。学力を多面的・総合的に評価する大学は引き続き増加しており、これに対応する支援体制の拡充が今後とも必要となる。</p> <p>②IRPにおいては産学官連携で、探究活動を実施するとともに調査・研究手法も学ぶことができた。また、京大、徳大を中心とした高大連携事業は今年度は昨年度と比べて実施できた事業が多かった。</p>	<p>難関大学の定義は難しいが、合格30人という数値が、全体的な学力向上のモチベーションを高める一つの目標となる。またそれを目指すことによって学校力・教育力を含めた学校の魅力につながる。引き続き継続して指導していただきたい。</p> <p>昔のものとは比べてアップデートしながら内容が変化してきているが、昨年度と同様にIRP活動（市高レインボウプラン）の生徒満足度は80%近く、引き続き活動を継続してほしい。</p> <p>また、例年のような形で、充実した様々な活動ができたことは大変よいことである。今後も素晴らしい人材の育成に向けて取り組んで欲しい。</p>	<p>①学力向上研究会を立ち上げ、学力の分析、学習習慣の定着、進路意識の高揚のため、組織的に取り組む体制ができている。今後も内容を充実させ、目的が達成できるように努めていきたい。また、高大接続改革、新入試制度についての情報収集に努め、教職員間で情報を共有するとともに、生徒や保護者への適切な情報提供に努めたい。</p> <p>②高大連携は引き続き徳大、京大を中心としながら、東大との繋がりを強化したい。京大との連携は、四国圏広大連携ネットワークに参加し、2年目となる。より充実した事業を期待したい。一方、徳島大学との連携では医学部JSLは、終了となったが、歯学部JSLと生物資源産業学部JSLは継続している。今後も学部開拓を進めたい。東大からは、市高フォーラムラムで東大教授を招聘する予定。</p> <p>マイナビのオンラインスタディプランは締め評価は得られていないため、新たな形を模索しなければならない。2年生は、産学官連携の2年目となる。1年目もまずまずの成果を取めたが、これから定着するよう、細かな部分を整備したい。また、行政も含めた複数</p>

			での体験学習への参加を促した。今後も大学や研究所、民間企業と連携し、生徒の参加できる機会を提供している。			連携に取り組みたい。
		②京都大学や東京大学の他、徳島大学や甲南大学との高大連携事を実施・拡大し、広い教養をもとに最先端の学知にふれる。	②東京大学で、理数科セミナーを実施。本校卒業生の在籍も確認され、今後も理数科セミナーを実施できる環境であった。今後、東大との継続的な連携について必要性を感じる。京大との高大連携事業は、本年度で改訂。今後もますますの連携が見込まれる。甲南大学と5年目になる「関西湾岸SDGsチャレンジ」では、4名の生徒が参加した。徳島大学は、教養教育院と「多言語ラボ」、「異文化キャラバン」、「留学生交流会」を実施。歯学部と生物資源産業学部でJSLを実施。医学部は終了となった。また、2年生IRPを中心に、徳大・鳴教大・文理大・四国大からも講師を招聘した。			
5	生徒指導の充実	<p>評価指標</p> <p>①集団生活におけるルールを遵守させ、マナーの向上を図る。</p> <p>②遅刻防止の指導の充実を図る。</p> <p>③特別なニーズを有する生徒について、支援体制を整える。</p> <p>活動計画</p> <p>①年間計画に基づいて指導にあたる。 ①生徒会・交通委員とともに挨拶運動を展開する。</p> <p>①学年集会、全校集会で指導する。</p> <p>①毎月の交通マナーアップ運動の日、学校安全の日には街頭指導をする。 ①いじめアンケート結果に基づいて面談を行う。</p> <p>②遅刻理由を把握し指導する。 ②遅刻の多い者には各学年団で指導を行う。</p> <p>③1、2学期に1回ずつ以上、スクールカウンセラーにアドバイザーを依頼し、研修会を実施する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①6月以降適宜行った。 ①学年集会を1年2回、2年3回、3年3回実施した。 ①交通マナーアップ10回、学校安全の日10回実施した。 ①7月と12月にアンケートを行った。</p> <p>②各学年1回実施した。 ②今年度1年2.7人、2年2.3人、3年5.8人であった。(昨年度2.2人)</p> <p>③精神科医による思春期特有の疾患に焦点を当てた内容であり、今後の支援のあり方について学ぶことができた。 ③特別支援担当者が1回以上研修・講演等に参加し、特別支援教育に関する知識や技能の習得を図ることができた。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①生徒指導年間計画に基づいて適切に行った。 ①生徒を主体とするあいさつ運動は生徒会、交通委員とともに達成できた。 ①集会における指導は問題行動を防ぐ、交通マナー等生徒の健全育成に努めた。 ①毎月10日マナーアップ運動、20日学校安全の日、職員交通委員とともに達成できた。 ①各担任アンケート結果を配布した。</p> <p>②遅刻理由を把握し、適切な指導が行えた。 ②各学年において遅刻指導を行った。</p> <p>③中村クリニック院長中村先生を迎えて、思春期に多くみられる症例と対処法の講座を1学年生徒・教職</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>①定期的に、集会を実施し、ルールの遵守やマナーの向上を図った。</p> <p>②遅刻者数は昨年度と比べて増加した。遅刻者数減少のための取り組みを強化していきたい。</p> <p>③校内外の研修等を通して、教育相談・特別支援担当者の知識の習得やスキルの向上を図ることができた。</p>	<p>遅刻指導の対応については、交通委員等、生徒自身による遅刻防止の啓発に取り組んでどうか。登下校時の事故防止等、今後もしっかり進めてほしい。</p> <p>雨の日は道が渋滞し、遅刻者が増加傾向にあるが、遅刻の理由にならないので、送迎の途中で降りるなどの方法を活用してほしい。</p>	<p>①あいさつ運動は毎週月曜日に実施しているが来年度も実施したい。</p> <p>②来年度も根気よく指導継続したい。</p> <p>③生徒の状況に応じたケース会議の充実や関係機関との連携をさらに強化し、早期の対応ができるよう心がける必要がある。</p>

			員に対して実施した。また「こどもCRT派遣事業」を利用し、該当生徒保護者に対して最適な支援のあり方を検討することができた。		
6	特別活動の活性化	<p>評価指標</p> <p>①部活動の活性化に努める。</p> <p>①部活動加入率90%以上。</p> <p>①四国大会以上の大会への出場部数10部以上。</p> <p>②ボランティア活動や生徒会活動を活性化する。</p> <p>②校内ボランティア活動を年3回実施する。</p> <p>②年3回生徒会新聞「フリーダム」を発刊する。</p> <p>活動計画</p> <p>①勉強と部活動との両立をHR活動や学年集会等で指導する。</p> <p>①部活動紹介・壮行式・賞状伝達式で意識の高揚を図る。</p> <p>②校内や周辺地域のボランティア活動を積極的に行い、豊かな人間性や社会性を育てる。</p> <p>②生徒会の活動をフリーダムに掲載することにより愛校心を養う。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①部活動加入率 1年93% 2年90% 3年85% 全体89%</p> <p>①四国大会以上の出場部数 四国大会 10部 全国大会 11部</p> <p>②校内ボランティア活動を年3回実施した。</p> <p>②生徒会新聞「フリーダム」を3回発刊した。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①新入生オリエンテーションで部活動と勉強の両立を指導するとともに、部活動紹介で部活動に加入することを指導した。</p> <p>①感染状況等に応じて、実施形態を対面かリモートかを使い分けて、全校生徒に報告した。</p> <p>②校内美化活動を学期に1回実施した。</p> <p>②生徒会新聞を作成し、生徒の健全育成に努め、愛校心を養うよう努めた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>(所見)</p> <p>①部活動加入率は全体では目標値を若干下回ったが1・2年では目標値を達成している。兼部ではなく専部で活動する生徒が多く、生徒の満足度は高いと思われる。さらに充実したものとなるよう、部活動の指導へ取り組んでいきたい。</p> <p>②校内での活動をはじめ、周辺地域等、校外での活動も例年のように行うことができた。</p>	<p>多数の部活動で良い成績を残しており、その活躍は大変素晴らしい。また施設などの環境も充実している。そのような市高の魅力をプロジェクトチームを作って、生徒主体で、SNS等を効果的に活用して広報すべきである。生徒主体で魅力を発信することで伝統ある市高の部活動の活性化につなげられる。</p> <p>①継続して部活動加入率の増加と競技実績の向上に努めていきたい。</p> <p>②校内ボランティアは年3回の実施を継続して実施したい。</p> <p>各種委員会による活動を活性化させていきたい。</p> <p>生徒会新聞「フリーダム」の内容をもっと充実したものにしていきたい。</p> <p>部活動や生徒会活動などの活動状況を広く発信できるように工夫していきたい。</p>
7	安全教育と環境教育の推進	<p>評価指標</p> <p>①資源の有効利用や環境負荷の軽減、環境保全など、地球環境問題について理解を深め、環境を守るための行動をとることができる人材の育成に取り組む。</p> <p>①節電・節水に努める。</p> <p>①ゴミの分別、減量化に努める。</p> <p>①リデュース、リユース、リサイクルに努める。</p> <p>①環境委員による校内美化活動を年間6回実施する。</p> <p>①学校周辺地域の清掃活動を年間2回以上実施する。</p> <p>②防災意識を高め、災害時に自らの命を守り、落ち着いて行動できる能力の育成に取り組む。</p> <p>②防災について関心の高い生徒の割合を70%以上にする。</p> <p>②生徒の防災士資格取得者を育成する。</p> <p>②防災HRを計画、実施する。</p> <p>③安全教育を推進するとともに、安全管理の一層の充実を図る。</p> <p>③学校安全の日に合わせ安全点検を実施する。</p> <p>③心肺蘇生法等に関する職員研修を年1回以上実施する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①節電・節水に努めた。</p> <p>①ゴミの分別、減量化に努めた。</p> <p>①リデュース、リユース、リサイクルに努めた。</p> <p>①校内美化活動 6回実施</p> <p>①学校周辺地域の清掃活動 2回実施</p> <p>②防災に関心の高い生徒の割合61.0% (2学期末(1・2年)生徒授業自己評価結果より) 昨年度 67.7% 一昨年度 68.5% (1学期末(全学年)生徒授業自己評価結果より)</p> <p>②防災士は2名が受検し、合格した。</p> <p>②防災HRを計画し、1回実施することができた。</p> <p>③学校安全の日に合わせ、救急箱・救急靴、AED、担架、車椅子等の安全点検を年間12回実施することができた。</p> <p>③緊急時の対応について繰り返し周知徹底を行うとと</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見)</p> <p>①「とくしまGXスクール」認定校として、脱炭素社会実現に向けた持続可能な社会の創り手の育成にむけて活動を行った。環境とSDGsとの関わりについて学習を深め、その成果が家庭や地域に広がっていくよう取り組みを行った。「分別」「清掃」「リサイクル」が当たり前に行えるよう呼びかけた。加えて、節電・節水など身近に取り組める環</p>	<p>環境教育に関しては、全ての項目で目標値を達成しているのは素晴らしい。</p> <p>防災については、今の生徒は昔に比べて、高い意識をもって防災訓練などに取り組んでいると思う。ただ南海トラフ大地震が身近に迫ってきていることでもあるので、さらに高い意識をすり込んでいってほしい。</p> <p>①引き続き各種取り組みを実施していきたい。</p> <p>取り組み状況の記録や掲示を有効に行い、節電・節水など身近な環境アクションの徹底や、ごみの分別・減量化をさらにすすめていきたい。</p> <p>②防災HRを実施し、災害対応を自らの問題として考える機会をつくりたい。また、防災・減災について啓発を行う機会を作り、意識を高めていきたい。</p> <p>避難訓練では、感染症予防対策なども視野に入れながら、計画の見直しや実行に取り組むたい。</p> <p>津波避難に向けた2次避難や地域との共同訓練も考えていきたい。防災委員</p>

	<p>③保健だよりにより保健委員会コーナーを設け、年間5回以上発行する。 (※③は保健室経営計画を兼ねる)</p>	<p>もに、心肺蘇生法・アレルギー対応研修を1回実施した。また、熱中症報ボード等を活用して熱中用予防に努めた。 ③年間12回発行した保健だよりのうち、保健委員会の活動報告や文化祭保健展の様子等を掲載した保健だよりを年間5回発刊できた。</p>	<p>境アクションにも進んで取り組めるよう機会あるごとに啓発を行った。</p>		<p>会の活動が、主体的で継続的な活動になるよう環境を整え、地域との連携に繋げていく事が課題である。</p>
	<p>活動計画</p> <p>①毎月の電力、水道使用量を調べ、昨年同期との比較を行い、結果を全校に知らせる。 ①スイッチや蛇口に節電・節水を呼びかける表示を貼り、注意を促し、使用していない教室等の照明をこまめに消す。 ①ゴミの分別を徹底する。 ①ペットボトルの分別回収、古紙の回収をおこない、印刷紙の裏面利用の徹底を図る。 ①環境美化に関するポスターや標語を作成する。 ①環境委員による校内美化活動を実施し、環境掲示板にて報告する。 ①学校周辺地域の清掃活動の日を設け、全校生徒で清掃奉仕活動を実施する。 ①定期的に校内放送で、環境美化や省エネについて、全校生徒に呼びかける。</p> <p>②年2回防災訓練を実施する。 ②授業を通して、自然災害についての理解を深め、防災意識の向上に努める。 ②防災委員会活動を防災掲示板にて報告し、意識の向上に努める。防災委員会を組織する事で、生徒の研修の機会を増やし、地域と連携した活動に繋げる。 ②防災センターと連携し、防災HRを計画、実施して意識の向上に努める。</p> <p>③毎月1回AED・車椅子・担架・救急靴の点検・管理等を行う。 ③シミュレーション研修を取り入れ、より実践的な研修とする。 ③保健だよりで身の回りの危険や安全確保、応急手当などについて取り上げ、保健委員会コーナーから発信する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①使用電気量及び電気代の掲示を行うことが出来なかったが、事務室との連携により集中管理を行い、成果を上げることができた。 ①ゴミの分別ができていないクラスや清掃場所を確認し、その都度注意勧告を行う事により、分別状況が改善された。 ①ペットボトル、段ボールの分別回収を行ったり、職員室では印刷用紙の裏面使用の徹底を進めた。 ①環境委員による環境美化に関するポスターを作成し、環境美化活動を実施した。 ①校外清掃活動を企画し、地域周辺の清掃奉仕活動を行った。 ①定期的に各HRにおいて、環境美化や省エネについて、呼びかけた。</p> <p>②2・3学期に防災訓練を各1回実施した。新型コロナの5類移行をうけて、本来の避難場所であるメインアリーナへの避難集合を実施することができた。 ②各教科において適宜自然災害についての話題を授業に取り組み実施した。 ②防災委員会において防災リーダーとしての意識を高め避難訓練の中心となり活動した。 ②防災HRを計画し、実施した。</p> <p>③保健委員会の活動として石けん補充や手洗い場の清掃等を実施することができた。学校安全の日にはAEDの点検を実施し記録した。 ③赤十字救急法指導員を講師に、心肺蘇生法・アレルギー対応の職員研修を実施し、充実した研修を行うことができた。 ③各時季に合ったテーマについて保健委員が調べ、保健だよりのコーナーや文化祭保健展において発信したり、クラスで呼びかけを行うなどして好評を得た。</p>	<p>②校内での取り組みとして避難訓練を実施した。また防災HRを2月に実施した。防災への意識高揚とともに自分や周囲の人の生命を守るための準備や心づもりをする機会となった。また、学校防災士に2名が合格し、徳島県防災サポーターへの登録も行った。</p> <p>③保健委員会の活動や保健だよりや掲示板の設置により安全や健康に関する意識を高めることに繋がった。職員研修については、赤十字救急法指導員を講師に、心肺蘇生法・アレルギー対応の研修を行い、資質・能力の向上に努めた。</p>		<p>③保健委員会による日々の活動や保健だよりの発行、文化祭の保健展のような学校行事の機会を捉えて、継続して安全や健康に関する意識を高めていきたい。 職員研修については、次年度も実践的な研修となるよう事例等を多く取り入れ、資質・能力の向上に繋げていきたい。</p>
<p>8</p> <p>グローバル化に対応した教育の推進</p>	<p>評価指標</p> <p>①グローバル化に対応した教育を推進する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①ドイツとの交流は廃止の方向。サギノー短期留学は4年ぶりに実施でき、台湾姉妹校への短期留学も実施できた。多文化キャラバンと多言語ラボ、留学生交流会も実施され、その満足度は80%を超えた。参</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>(所見)</p>	<p>昨年まで、コロナの影響で、留学生等の受け入れや、交流がなかなか難しかったが、今年度は4年ぶりにサギノーへの短期や台湾姉妹校への短期留学が復活し、</p>	<p>①サギノー語学研修や台湾研修が復活し、充実した事業が実施できた。多文化キャラバンで文理大学留学生との交流はできなかったが、徳島大学と連</p>

		<p>加者は、多文化キャラバン15名、多言語ラボ中国語21名、ドイツ語は21名の受講者がおり、対面等で楽しみながら言語学習を行った。1月の留学生交流会も対面での実施し、昼食会も行った。</p>	<p>①世界各国の文化や言語を学び、また地元の徳島大学留学生との交流を活用しながら幅広いグローバル化に対応した教育を展開した。さらに念願であったサギノ短期留学や台湾姉妹校への短期留学も実施でき、グローバル教育を推し進めることができた。</p>	<p>ほぼ例年どおりの活動ができた。生徒のアンケートで80%を超える満足度が出たことは素晴らしい。 本校留学生の受け入れは現在ないということなので、機会があれば積極的に受け入れて国際交流につなげてほしい。</p>	<p>携している多言語ラボ、徳大留学生交流会は予定通り実施できた。次年度は、大学の担当教授が替わるが、これまで通りの事業を継続したい。ただ、台湾研修に関して、市の予算が打ち切りとなったことには危機感を抱いている。どうにかならぬものか……。</p>
<p>9 特色ある学校づくりの推進</p>	<p>①家庭・地域へ積極的に情報を発信する。 ②保護者と積極的に情報交換し、日頃の教育活動に生かす。 ③学校行事を充実させると共に積極的な公開に努める。 1 市高祭の公開 2 体験入学等の実施</p>	<p>①学校ホームページへのアクセス件数 150,000 件以上を目指す。 ②PTA関係行事について、内容の充実と保護者・教の負担軽減の両立を目指し、内容を再検討した上で、PTA総会や各種研修会の参加率を増やす。 ③市高祭の入場者数1,200人以上を目指す。 ③アトラクション・表現展示・バザール等の参加団体数42以上を目指す。 ③学校説明会の参加者数400人以上を目指す。 ③オープンスクールの参加者数200人以上を目指す。</p>	<p>①アクセス数228,833件 (4/1~3/14) 昨年度240,565件 ②PTA総会の参加率 37.2% 昨年度は29.7% ※コロナ前の平成元年度は27.7% 3年対象進路説明会 76.4% 昨年度72.2% ③市高祭の入場者数 1,993人 ③アトラクション・表現展示・バザールの参加団体数 42団体 ③学校説明会参加者457名 ③オープンスクール参加者203名</p>	<p>総合評価 (評定) A (所見) ①学校施設、学校行事や授業の様子を記事と写真で配信し、保護者や中学生等に対して積極的な情報提供に努めた。 ②今年度はコロナ前の形でPTA総会と進路講演会を実施することができた。参加率も目標を上回ることもできた。今後もさらに実施形態や内容の検討を進め、よりよいものになるようにしていきたい。 ③学校説明会はあしかびホールにて7/2(金)と7/5(月)の2回で実施した。参加者は昨年度より増加し、457名であった。</p>	<p>市高祭やPTA総会など、コロナ開けて例年のように実施できたことは大変喜ばしい。特にPTA総会は高い参加率で、学校行事への参加を期待していた保護者のニーズが高かったことが分かる。また市高祭も久しぶりに一般公開し、大盛況であったことも良かった。PTA総会などの集会等の行事はオンラインで参加できるようにしてはどうだろうか。機材や準備等の課題はあると思うが、検討してほしい。 DVDなど、広報のための映像制作等は生徒主体で行ってどうか。大会などの撮影に行くには移動手段があるので、顧問等の担当者は必要である点は課題はあるが検討してほしい。</p> <p>①ホームページへのアクセス数はほぼ昨年並みであり、中学生、地域の関心の高さが伺えた。 ②今年度はPTA総会を例年どおり実施できたことで参加率が3割を超えた。この参加率を維持できるよう、案内や内容、運営方法についてアンケート等を踏まえ改善を検討していきたい。 家庭教育部文化教養講座は、今年も好評だったので、参加者が満足できるように内容を今後も継続すると共に、さらに参加者の幅を広げていく工夫を検討していきたい。 ③学校説明会や中学校での高校説明会などの開催できる機会を通じて、できるかぎり、中学生へ本校の魅力情報を発信していきたい。また、3Dバーチャル体験入学のコンテンツや、学校説明用のDVDを作成して中学校に広報して授業等で利用しても</p>
	<p>活動計画</p>	<p>①自文化を理解するためにも、地元徳島の現状を学び、課題を発見し、解決法を模索できる思考力を育成する。そのためにもIRPにおいて、徳島探究講座を実施し、地域に出向き、現状を理解する。 ①徳島文理大学や日和佐の企業と連携し、留学生や社会人との交流を通じて、日本や世界の文化にふれる。 ①台湾・国立潮州高級中学、ドイツヘルバルトギムナジウム校との交流を通じて、アジア、ヨーロッパの高校生から幅広い知識を吸収する。 ①多言語ラボでの活動を通じて、英語に加えて中国語やドイツ語を学ぶことで多文化への理解を深め、視野を広げる。</p>	<p>活動計画の実施状況 ①グローバル化の基軸は地域、中でも地元理解にあり、地域の集合として世界を捉える視点を獲得できるかにかかっている。そのため徳島とより広い地域を結ぶ探究活動をSDGsの視点も取り入れて実施した。徳大との連携事業もこれに貢献した。 ①1学年での徳大留学生交流会では留学生を本校に招いて留学生から話を聞くことができた。生徒は多文化理解に成果を得ることができた。多言語ラボは徳島大学留学生や教授から文化や言語を継続的に学ぶ講座であるが、中国語・ドイツ語ともに多数の生徒が参加した。 ①サギノ短期留学(16名)、台湾国立潮州高級中学への研修(20名)では、多文化を直接体験する良い機会となっている。今後も研修を継続させたい。</p>		
	<p>評価指標</p>	<p>評価指標の達成度</p>	<p>活動計画の実施状況</p>		

			内容について、「大変よかった」又は「よかった」の回答が100%で大変好評だった。また来年度以降の内容について多くの希望・意見をいただいた。	本校への関心を持っている中学生、保護者が多いことが伺える。		らうなどした。
		③学校・保護者による作品展・交流を行う等、内容の充実に努める。	③「職員・保護者展」において、教職員および保護者の作品を展示し、多くの方にみていただいた。また準備活動も例年どおり保護者とともに行い、親睦と内容の充実に努めた。			
		③事前の計画を綿密に立て、魅力ある公開授業やわかりやすい説明に努める。学校説明会を実施しない中学校にはDVDの配付に努める。	③学校説明会のポスターやチラシを事前作成し関係中学校への広報活動にまわった。中学校での高校説明会にも本年度は6中学校で説明できた。また、学校説明用のDVDを作成して8中学校で利用があった。			
10	情報教育の推進	評価指標	評価指標の達成度	総合評価		
	①情報教育を拡充する。	①年間2回以上、情報セキュリティやICT活用指導力向上等に関する教員対象の研修会を実施する。	①年度当初に校内情報システムについてのオリエンテーションを開いたほか、情報セキュリティやGIGAスクール構想の実施にともなう研修を2回実施した。	(評定) A	タブレットの不調が、想定外に起こる中で、不具合の次案を整理し、柔軟に対応することで、できる範囲で適切に対応できたことは大変素晴らしい。	①タブレット端末や通信環境の不具合に教員と生徒が柔軟に対応できるようになった。
	②ICT環境の改善を進める。	②生徒一人1台のタブレット端末の不具合に迅速に対応すると同時に、原因を特定し解決を図る。	②不具合の事案を整理し、対応策を課内で共有することで、複数の教員で柔軟に対応できる環境を整えた。	(所見)	生徒一人1台タブレット端末のトラブルに迅速に対応し、様々な学習ツールの利用法を提案し、授業での実践につなげいくことが実現できている。引き続き情報教育の推進に取り組んでいってほしい。	②機器のトラブルに関して、タブレットの性能の問題と同時に、取り扱いにも問題が見られた。来年度は注意喚起を定期的に行ってほしい。
		③様々な学習ツールの利用方法を提案し、授業での実践へとつなげる。	③研修会を通して、積極的にITを活用している先生方の授業実践例を教員間で共有した。	①タブレット端末やアプリケーションを活用した学習を実践する環境整備を進めることができた。		
		活動計画	活動計画の実施状況	②タブレットの不具合に対する校内での対策を適切に行うことができた。		
		①情報モラル教育年間指導計画を策定し、情報化の進展に適切に対応できる資質や態度を養う。	①情報モラル教育年間指導計画にもとづき、授業、ホームルーム活動、オリエンテーション等とおして、情報モラルの向上に取り組んだ。			